

2021年度 第2四半期決算説明会 (2021年4月～2021年9月)

開催日：2021年11月30日

(東京都文京区小石川一丁目28番1号)

ジオスター株式会社

目次



1. 2021年度上期決算概要(P3~P13)
2. 2021年度業績予想(P14~P16)
3. 参考資料(P17~P27)

1. 2021年度上期決算



- ・2021年度上期の事業環境 P4
- ・2021年度上期決算の概況 P5
- ・上期連結決算概要 P6
- ・受注高・受注残の推移 P7
- ・連結貸借対照表概要 P8
- ・連結主要経営指標 P9
- ・上期キャッシュフローの概要 P10
- ・設備投資・減価償却の推移 P11
- ・2021年度・剰余金の配当 P12
- ・配当金の推移 P13

- 土木業界については、公共投資は高水準で推移している。
- 先行きについても関連予算の執行により底堅く推移することが見込まれる。

但し、以下の点は引き続き注視が必要

- 東京外かく環状道路の掘進開始時期が不透明。
- 鉄筋をはじめとする材料の価格高騰。
- 新型コロナウイルス感染症拡大による工事の中断。

なお、新型コロナウイルス感染症が当社グループにおける損益に与える影響は、現在のところ無いものと判断している。

2021年度上期決算の概況



2021年度上期は減収増益

製品の出荷遅れ等の影響により減収となったものの、プロジェクト構成の好転等により営業利益、経常利益は増益となる。

2021年度上期の対応

大型セグメントに留まらず中小セグメントに加え土木製品の新規受注並びに生産の積み増しに努めると共に、徹底した原価低減による収益力向上に努める。

上期連結決算概要



当第2四半期連結累計期間の経営成績は、製品の出荷遅れ等の影響により、売上高は125億65百万円(前期比12.9%減)と減収となったものの、プロジェクト構成等の好転により、営業利益は7億63百万円(前期比33.8%増)、経常利益7億67百万円(前期比33.0%増)の増益となる。親会社株主に帰属する四半期純利益は4億80百万円(前期比26.9%増)となる。

(単位:百万円)

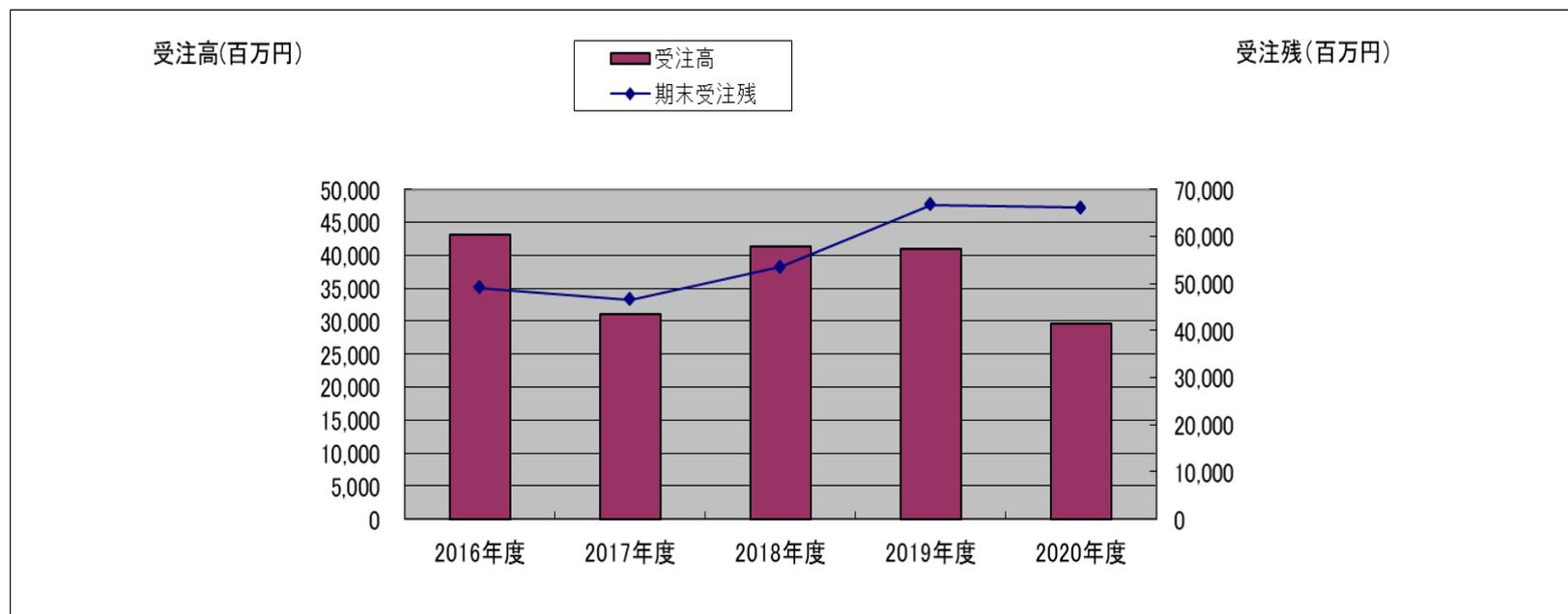
	前第2四半期 累計実績 A	当第2四半期 累計実績 B	前期比 C=B-A	増減率 C/A	2021年度 第2四半期 業績予想公表値	
					2021年 5月13日	2021年 9月3日
売上高	14,424	12,565	△ 1,859	△ 12.9%	14,500	12,700
営業利益	570	763	193	33.8%	500	500
経常利益	577	767	190	33.0%	500	500
特別損益	△ 1	△ 1	0	△ 2.4%	—	—
親会社株主に帰属 する四半期純利益	378	480	102	26.9%	300	300

受注高・受注残の推移



(単位:百万円)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
受注高	43,152	31,097	41,219	41,010	29,556
期末受注残	49,034	46,491	53,444	66,621	66,028



連結貸借対照表概要



(単位: 百万円)

科 目	前会計 年度末	当第2四 半期末	増減額	科 目	前会計 年度末	当第2四 半期末	増減額
	A	B	B-A		A	B	B-A
現預金同等物	4,867	3,651	△ 1,215	長短借入金	1,250	450	△ 800
受手・売掛金	7,628	6,249	△ 1,379	支手・買掛金・未払	7,076	6,783	△ 292
たな卸資産	8,259	9,561	1,302	その他	4,006	3,903	△ 102
未収入金	2,401	2,391	△ 10				
その他	168	541	372	負債合計	12,332	11,136	△ 1,195
流動資産合計	23,324	22,395	△ 929	自己資本	20,585	20,836	250
有形固定資産	7,659	7,593	△ 65	その他有価証券 評価差額金	420	448	27
投資有価証券他	1,933	1,984	50				
固定資産合計	9,593	9,578	△ 15	純資産合計	20,585	20,836	250
資産合計	32,918	31,973	△ 944	負債純資産合計	32,918	31,973	△ 944

連結主要経営指標



	前第2四半期	前会計年度	当第2四半期
自己資本当期純利益率 (R O E)	1.9%	4.4%	2.3%
総資産経常利益率 (R O A)	1.9%	5.6%	2.4%
営業利益率	4.0%	5.9%	6.1%
D/E レ シ オ	0.06倍	0.06倍	0.02倍
自己資本比率	63.4%	62.5%	65.2%
有利子負債残高	1,250百万円	1,250百万円	450百万円
期末総資産	31,358百万円	32,918百万円	31,973百万円
期末自己資本	19,882百万円	20,585百万円	20,836百万円

上期キャッシュフローの概要



当第2四半期は、法人税等の支払等により営業CF2.3億円の収入、また、有形固定資産の取得等の支出3.7億円によりフリーCFは1.4億円の支出となる。さらに、借入金返済、配当金支払10.6億円で、現金同等物は前連結会計年度末に比べ12.1億円減少し、36.5億円となる。

(単位:百万円)

	前第2四半期 累計期間 A	当第2四半期 累計期間 B	増減額 B-A
税金等調整前四半期純利益	575	765	190
減価償却費	340	336	△ 3
法人税	344	△ 715	△ 1,059
その他営業キャッシュフロー	2,489	△ 155	△ 2,645
投資キャッシュフロー	△ 197	△ 378	△ 180
フリーキャッシュフロー	3,552	△ 146	△ 3,698
借入金等 調達・返済	-	△ 800	△ 800
支払配当	△ 156	△ 265	△ 109
その他	△ 5	△ 3	1
現金同等物 増減額	3,390	△ 1,215	△ 4,606
現金同等物 期首残	1,766	4,867	3,101
現金同等物 期末残	5,156	3,651	△ 1,505

設備投資・減価償却の推移

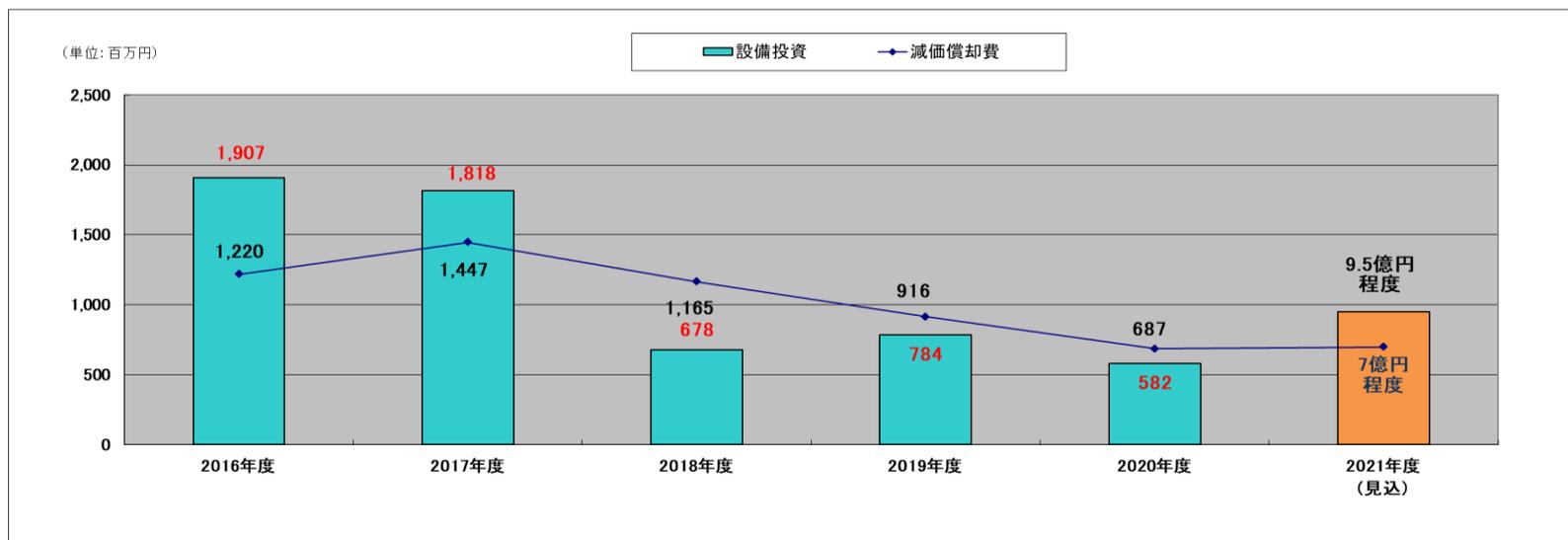


2020年度は、主に金谷工場のプロジェクト対応による設備投資を実施いたしました。
2021年度の設備投資は、新規プロジェクト対応設備及び既存設備の更新が主なものとなる。

(単位:百万円)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度 (見込)
設備投資	1,907	1,818	678	784	582	9.5億円 程度
減価償却費	1,220	1,447	1,165	916	687	7億円 程度

(注)2020年度より有形固定資産の減価償却方法を定率法から定額法に変更。



2021年度・剰余金の配当



剰余金の配当につきましては、当社の事業特性から売上高が下期に集中する季節要因があり、収益状況から期末配当の1回とすることが財務上も適切であると考えております。

2021年度においても、誠に遺憾ながら当期の中間配当は見送ることと致しました。なお、期末の配当予想については、引き続き未定とさせて頂き、確定次第速やかに公表致します。

【利益配分に関する基本方針】

当社グループは適正な利潤の確保に努め、健全な発展と持続性を目指し、収益状況に対応した適性な配当維持に努力することを基本方針といたします。また内部留保を充実し、企業体質の強化と将来の事業展開に備えたいと考えております。

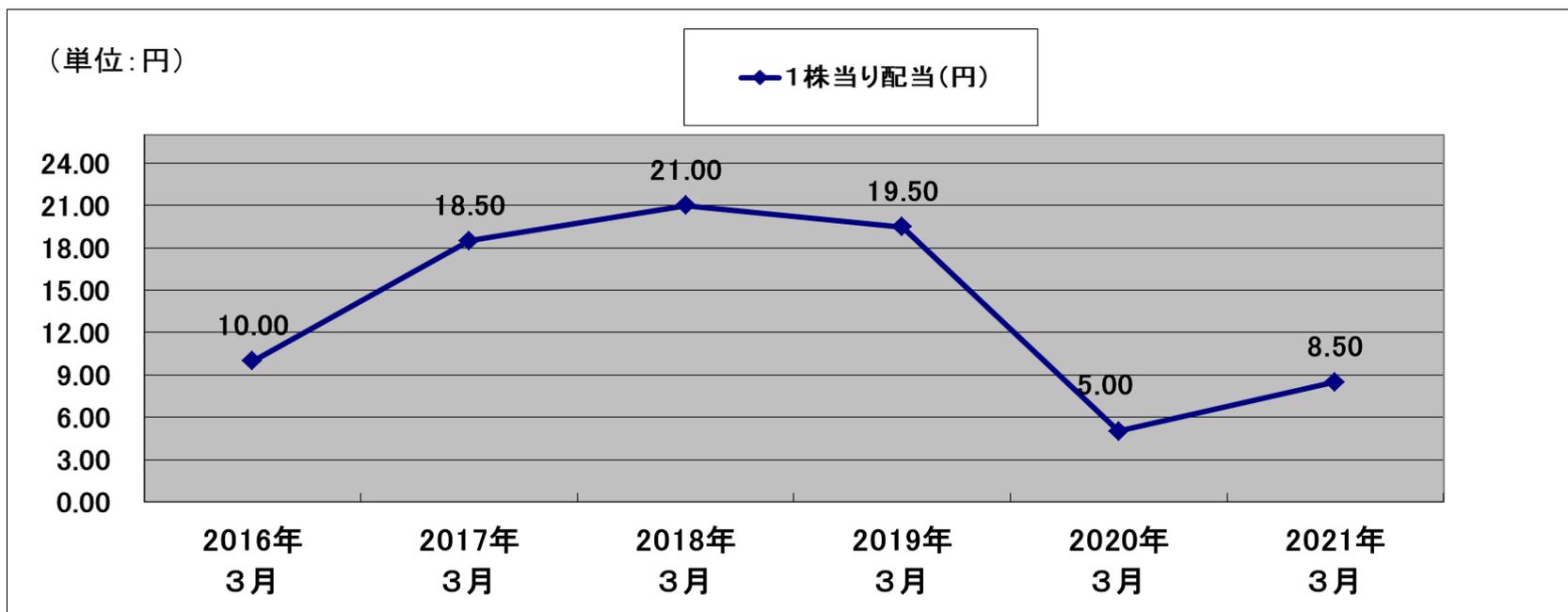
収益状況に対応した適正な配当の指標として

⇒連結配当性向年間30%程度を目安とします。

配当金の推移



決算年月	2016年 3月	2017年 3月	2018年 3月	2019年 3月	2020年 3月	2021年 3月	2022年 3月
1株当たり配当(円)	10.00	18.50	21.00	19.50	5.00	8.50	未定
(内中間配当額)	(一)	(5.00)	(5.00)	(5.00)	(一)	(一)	(一)



2. 2021年度業績予想



- ・2021年度の概要 P15
- ・2021年度業績予想 P16

2021年度の概要



【事業環境】

2021年度は大型プロジェクトの生産・検収等の増加により売上高は増加するものの、競合他社の能力増強による競争激化から、主力であるセグメント製品の市場環境の悪化による収益率の低下や、大型プロジェクトの出荷遅れによる出荷コストの増加により、増収減益の見込み。

【対策】

- ・大型セグメントに留まらず中小セグメントに加え土木製品等の受注に努め、生産量の拡大を図る。
- ・大型土木・特殊製品を設計に織込むための専門部署による技術提案力の強化により、土木製品の受注拡大に努める。
- ・防災・減災を中心とした新規分野開拓に向けて、ハイブリッド建材を含めた差別化商品の開発、市場投入を図る。
- ・調達改革・操業コスト削減・固定費適正化など徹底した原価低減を実行する。

2021年度業績予想



通期の連結業績見通しは、売上高335億円(前期比33億51百万円増)、営業利益14億円(前期比3億64百万円減)経常利益14億円(前期比3億78百万円減)となる見通し。

親会社株主に帰属する当期純利益は、ほぼ昨年並みの9億円(前期比9百万円増)となる見通し。

(単位:百万円)

	2020年度				2021年度				差 異		
	実 績				業 績 予 想						
	上期	下期	通期 A	比率	上期 実績	下期 見通し	通期 B	比率	前年 上期 対比	2020年 上・下 対比	通期 対比
	①	②			③	④			③-①	④-③	B-A
売 上 高	14,424	15,725	30,149	100.0%	12,565	20,935	33,500	100.0%	△ 1,859	8,370	3,351
営 業 利 益	570	1,194	1,764	5.9%	763	637	1,400	4.2%	193	△ 126	△ 364
経 常 利 益	577	1,201	1,778	5.9%	767	633	1,400	4.2%	190	△ 134	△ 378
親会社株主に 帰属する 当期純利益	378	513	891	3.0%	480	420	900	2.7%	102	△ 60	9
配 当 (円)	0.00	8.50	8.50	-	0.00	未定	未定	-	-	-	-

- ・今後実行される主なプロジェクト
- ・ジオスターの地下空間
セグメント製品
土木製品
- ・トピックス
- ・新製品(新工法)紹介

今後予定される主なプロジェクト



1. リニア中央新幹線

概要: 東京と名古屋を結ぶ高速鉄道

区間: 品川～名古屋

第一首都圏トンネル: 延長約40キロ

- ①北品川工区 : 約10キロ(熊谷JV)
- ②梶ヶ谷工区 : 約12キロ(前田JV)
- ③東百合丘工区 : 約 4キロ(西松JV)
- ④小野路工区 : 約10キロ(安藤・ハザマJV)
- ⑤第二首都圏 : 約 4キロ(奥村JV)

第一中京圏トンネル: 延長約22キロ

- ①坂下東工区 : 約 2キロ(未定)
- ②坂下西工区 : 約10キロ(安藤・ハザマJV)
- ③名城工区 : 約 7キロ(前田JV)
- ④風越山 : 約 3キロ(大林JV)

完成予定: 2027年

2.北海道新幹線

概要:新函館北斗～札幌(211キロ)区間のうち
手稲山から札幌駅付近までの地下部を通過する
新幹線用シールドトンネル

区間:札幌市手稲区～札幌市中央区

延長:約8キロ

完成予定:2030年

3.枚方トンネル

概要:新名神高速道路
枚方市域の地下部を通過するシールドトンネル

区間:大阪府枚方市～京都府八幡市

トンネル区間:約4.5キロ

完成予定:2023年

4. 鹿児島東西道路

概要: 鹿児島ICと鹿児島中心市街地を結ぶ道路

区間: 田上IC～甲南IC(仮称)

トンネル区間: 下り線1.2キロ

完成予定: 2027年

5. 多摩川トンネル

概要: 国道357号東京湾岸道路

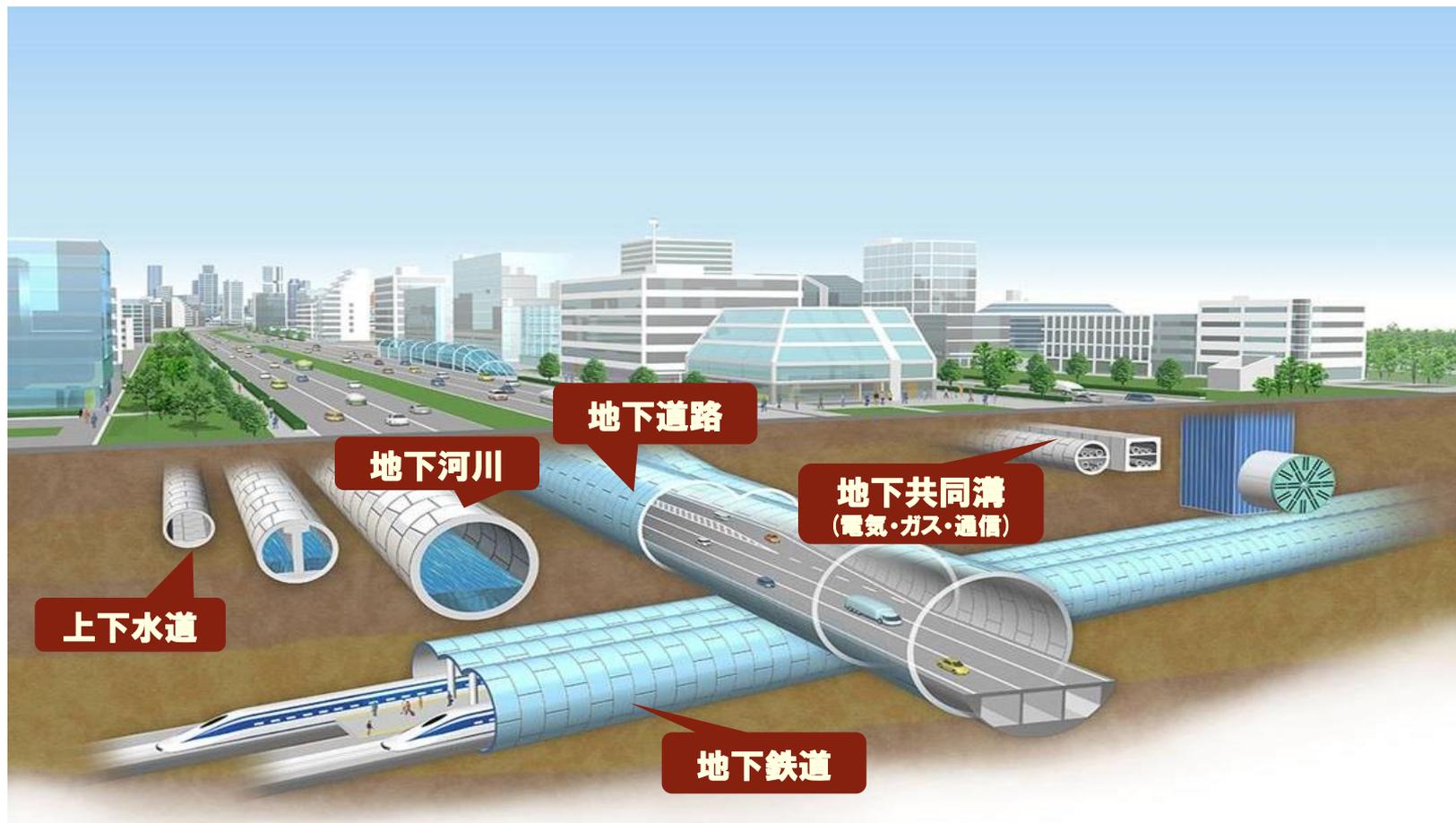
東京都大田区羽田空港と川崎市川崎区浮島を結ぶ
道路用シールドトンネル

区間: 大田区羽田空港～川崎区浮島

延長: 3.4キロ

完成予定: 2024年度

ジオスターの地下空間



セグメント製品



- RCセグメント
- スチールセグメント

- CPセグメント
- HCCPセグメント
- NMセグメント



土木製品



土木製品



- ボックスカルバート
- アーチカルバート
- L型部材
- 共同溝
- 防潮堤
- モジュラーチ
- ジオウエアボックス
- 矢板
- スラブ



トピックス

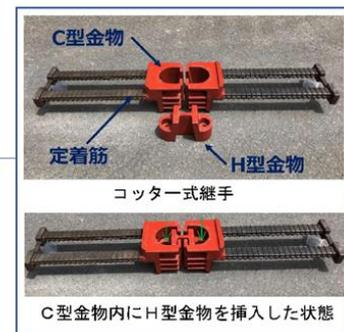
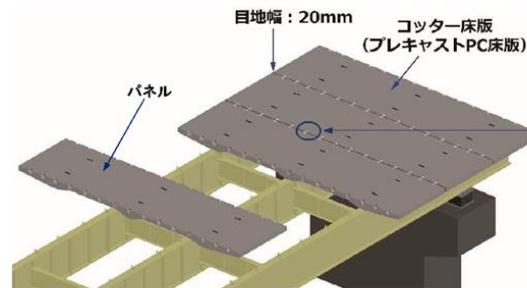
「コッター式継手を導入した橋梁用プレキャストPC床版(コッター床版工法)」
が令和2年度 土木学会賞において「技術開発賞」を受賞しました！



- 開発者は、(株)熊谷組、(株)ガイアート、オリエンタル白石(株)、ジオスター(株)の4社の共同開発商品です。
- コッター床版工法は、高速道路の老朽化した橋梁床版の取替えを急速施工することで、工事における社会的な影響を低減し、利用者の利便性をできるだけ損なわない工法として開発されました。
- コッター床版工法は、床版を20mmの間隔(目地)を設けて架設し、床版に埋め込まれたC型金物に、現地でH型金物を挿入し、ボルトで締め付け床版を締結した後、接合部(目地)に目地材を充填して接合強度を確保する工法です。

【特長】

- ①工程短縮(急速施工)：床版設置期間は従来の1/2
- ②省力化、熟練工不要：作業員数は従来の1/2
- ③労働安全性：床版の90%
- ④品質向上：床版の99%をプレキャスト化
- ⑤優れた取替性：部分的な床版取替が可能



新製品(新工法)紹介



HRC矢板

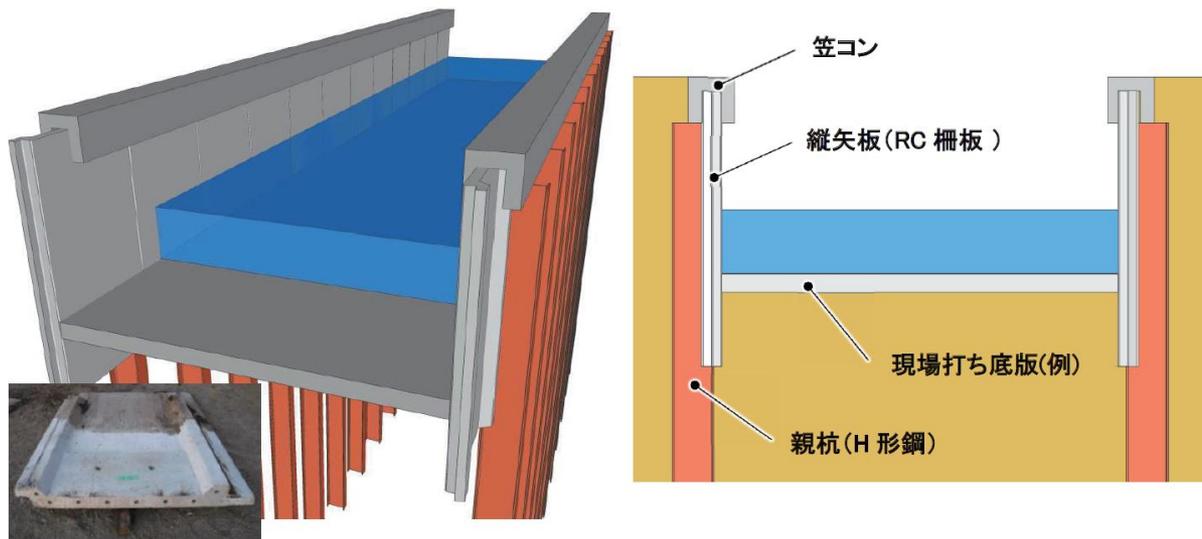
NETIS KT-190109-A

特徴

2020年3月16日:NETIS登録

NETISとは
(新技術情報提供システム)

公共工事等で活用する新技術をまとめたデータベースで、国土交通省が新技術に関する情報を一般に提供し、新技術の活用を推進する目的で運用するシステム。



【構造】

- ・ H型鋼の親杭とコンクリート縦矢板の複合構造により土留壁を構築する工法です。
- ・ 道路擁壁で数多くの実績を有する柵板の応用で、経済的な構造を実現します。
- ・ 荷重(土圧)はコンクリート縦矢板/1.5m幅を介して親杭に伝達されます。
- ・ コンクリート縦矢板を地盤に貫入させることで、ボイリングやヒービングを防止します。
- ・ コンクリート縦矢板は親杭(H形鋼)を被覆し、耐久性、景観性・美観性を向上します。

【用途】

- ・ 水路をはじめ、道路擁壁、調整池等の土留め構造に適用可能です。
 - 設計基準 ・土地改良事業標準設計基準書「水路工」(農林水産省農村振興局)
 - ・災害復旧工事の設計要領(公益社団法人全国防災協会) 他

新製品(新工法)紹介

特徴

【根入れの短縮】

- ・ 曲げ荷重を親杭が受け持つため、縦矢板の根入れを短縮でき、経済性が向上します。

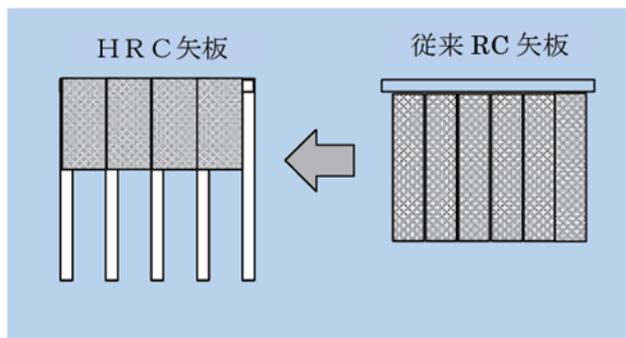
【矢板の薄肉化】

- ・ 縦矢板は親杭間で支えられた梁構造となるため、薄肉化できます。
なお、HRC矢板は製品幅1.5mに拡大しています（従来のRC矢板は1.0m）。

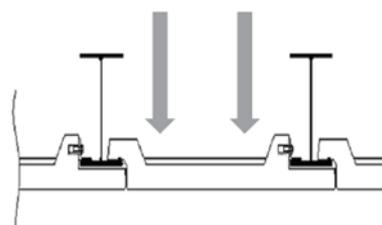
【水理特性】

- ・ 粗度係数が小さく、更新工事の場合、既設の矢板を撤去せずに水量を確保できます。

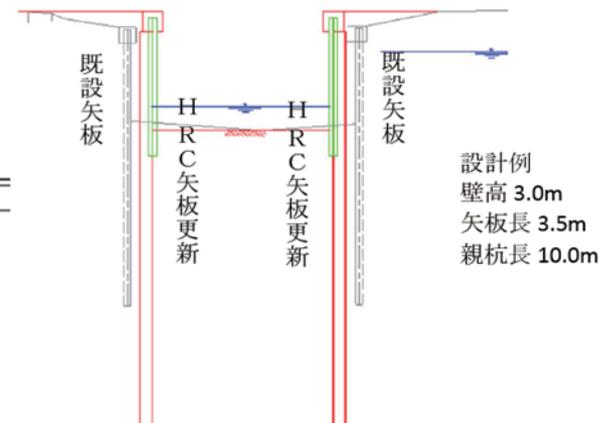
縦矢板の根入れ短縮と広幅化



薄肉の縦矢板



既設護岸の内側に更新



本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、資料作成時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害につきましても、当社は一切責任をおいしません。